

令和元年6月10日現在

機関番号：24501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02690

研究課題名（和文）清代の満漢対訳会話書類に関する総合的研究

研究課題名（英文）A comprehensive study on Manchu-Chinese bilingual conversation books in the Qing dynasty

研究代表者

竹越 孝 (TAKEKOSHI, Takashi)

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：10295230

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、清代に刊行された満洲語と中国語の対訳会話書類を対象として、現存するテキストについて文献学的検討を行い、最良の版本に基づく満洲文字のローマ字転写及び日本語訳を作成するとともに、現存諸版本を校合した校注テキストの作成を目指すものであった。その目的は、現代中国語の母体である清代北京語研究の発展に寄与することである。

研究期間を通じて、満漢対訳会話書類について現存する諸版本をほぼ掌握することができ、いくつかの校注テキストを刊行することができた。本研究により、満漢対訳会話書類を資料とした清代北京語研究はおおよその基礎が形作られたと言える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまでほとんどその全体像が知られることがなかった清代の満漢対訳会話書類を対象として、テキストの文献学的検討と校注本の作成を目指すものであった。

本研究を通じて、国内外を含めて現存する満漢対訳会話書類の諸版本をほぼ掌握することができ、また日本及び中国でいくつかの校注本を刊行することができた。

本研究により、満漢対訳会話書類を資料とした清代北京語研究はおおよその基礎が形作られ、中国語史研究の新たな語料群としてこの満漢対訳会話書類が利用可能になったといえることができる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we analyzed the existing texts of Manchu-Chinese bilingual conversation books published in the Qing Dynasty, and composed the correct texts of them including the transcriptions and translations of Manchu. The aim of this study is to contribute the study of Beijing dialect in the Qing dynasty which became the basis of Modern Chinese. Through the study, we could understand the overall situation of existing texts of Manchu-Chinese bilingual conversation books in the Qing dynasty, and we published several correct texts of them. It can be said that the study of Manchu-Chinese bilingual conversation books has been formed a rough foundation.

研究分野：中国語学

キーワード：満洲語 中国語 清代 北京語

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

清代には、北京遷都(1644年)以後、急速に漢化し母語である満洲語を忘れていった満洲人のために、数多くの中国語による満洲語学習書が刊行された。そのうち、中国語史の研究にとって有益な材料となり得るものに、満洲語と中国語の対訳形式による会話書の類がある。こうした会話書に見られる中国語は極めて口語性に富んでおり、清代北京語の研究にとって最重要資料の一つであることは既に定説となっている。

こうした満漢対訳会話書の類は多数現存しているにも関わらず、満洲語の読解が壁となって、とりわけ中国語学の立場からの研究は、日本のみならず世界でも空白と言ってよい状態が続いていた。申請者は、平成25-27年度科研費・基盤研究(C)「満洲語の意味と用法からアプローチする清代北京語の語彙・語法研究」において、清代の満漢対訳会話書の中で最も広く流通していたと思われる二種の文献、『清文啓蒙・兼漢滿洲套話』(全50話、初版1730年)と『清文指要』(全100話、初版1789年)を主な対象として、中国語学の立場から研究を行った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、清代に刊行された満洲語と中国語の対訳会話書類を対象として、現存するテキストについて文献学的検討を行い、最良の版本に基づく満洲文字のローマ字転写及び日本語訳を作成するとともに、現存諸版本を校合した校注テキストを公表するというものであった。それにより、現代中国語の母胎である清代北京語研究の発展に寄与することができる。

具体的には、前回の科研費に基づく研究において積み残した、『清文指要』の諸版本を校合した校注テキストを作成するとともに、次のような満漢対訳会話書について文献学的研究を行い、それぞれの翻字・翻訳及び校注テキストを作成することを目的とした。

『満漢成語對待』四巻、劉順著、1702年序。

『清話問答四十條』一巻、1758年序。

『満漢合璧集要』一巻、1766年刊。

『清語易言』一巻、1766年序。

『庸言知旨』二巻、宜興著、1819年刊。

『問答語』一巻、1827年刊。

以上のうち、及びについては先行研究が存在するが、その他についてはいまだ学界に本格的な紹介がなされていない状態であった。

3. 研究の方法

(1) 文献学的検討

まず、それぞれのテキストについて、世界にどの程度異本が存在し、どの版本が最良であり、各版本はどのような継承関係にあるか、また関連する資料が存在するか否かという点に対する調査を行い、それぞれに対する総合的な文献学的検討を行った。

(2) 翻字・翻訳及び校注テキストの作成

『清文指要』、『満漢成語對待』については、一部の版本に基づく翻字・翻訳が公表されているため、他の版本を校合した形での校注テキストを作成した。また、『清話問答四十條』、『清語易言』、『満漢合璧集要』、『問答語』の4種については最良の版本に基づく翻字・翻訳を作成するところから始め、同様に他の版本を校合した校注テキストの作成を行った。

4. 研究成果

研究期間を通じて、満漢対訳会話書類について現存する諸版本(海外に所蔵されるものを含む)をほぼ掌握することができ、いくつかの会話書について校注テキストを刊行することができた。具体的には、

『一百条』、『清文指要』、『新刊清文指要』の三種対照本

『満漢成語對待』の校注本

『清話問答四十條』の校注本

『清語易言』の校注本

『満漢合璧集要』の校注本

『問答語』の校注本

であり、残るは『庸言知旨』のみとなった。

以上の校注本には、満洲文字のローマ字転写、満洲文字の逐語訳、中国語の翻刻を含み、に関しては満洲語・中国語双方の索引を付している。本研究により、満漢対訳会話書類を資料とした清代北京語研究はおおよそその基礎が形作られたと言える。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計13件)

竹越孝、校注『問答語』、神戸外大論叢、査読有、第70巻第2号、2019年、pp. 19-37

<https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/>

竹越孝、斉燦、余雅婷、陳曉、満漢合璧版『古新聖經』訳注稿(4)、或問、査読無、第34号、2018年、pp. 135-152

<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~shkky/wakumon.html>

竹越孝、校注『清話問答四十條』(下)、神戸外大論叢、査読有、第69巻第2号、2018年、pp.1-45

<https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/>

竹越孝、斉燦、余雅婷、陳曉、満漢合璧版『古新聖經』訳注稿(3)、或問、査読無、第33号、2018年、pp.151-168

<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~shkky/wakumon.html>

竹越孝、校注『清話問答四十條』(上)、神戸外大論叢、査読有、第68巻第1号、2018年、pp.105-152

<https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/>

竹越孝、満洲旗人の言語生活 清代の満洲語学習書から、東洋文化研究、査読無、第20号、2018年、pp.85-104

竹越孝、《満漢成語对待》 現存最早の清代満漢合璧会話教材(中国語)、漢語史学報、査読有、第18輯、2017年、pp.132-142

竹越孝、斉燦、余雅婷、陳曉、満漢合璧版『古新聖經』訳注稿(2)、或問、査読無、第32号、2017年、pp.57-178

<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~shkky/wakumon.html>

竹越孝、陳曉、校注『清語易言』、神戸外大論叢、査読有、第67巻第4号、2017年、pp.29-70

<https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/>

竹越孝、斉燦、余雅婷、陳曉、満漢合璧版『古新聖經』訳注稿(1)、或問、査読無、第31号、2017年、pp.183-200

<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~shkky/wakumon.html>

竹越孝、清代満漢合璧会話教材在漢語史研究上の価値(中国語)、文献語言学、査読有、第4輯、2017年、pp.95-111

竹越孝、陳曉、満語助詞 dabala 与漢語句末助詞“罷了/罷咧”相關關係研究(中国語)、民族語文、査読有、第6期、2016年、pp.26-37

竹越孝、陳曉、子弟書 Katuri Jetere (螃蟹段兒)校注、神戸外大論叢、査読有、第66巻第1号、2016年、pp.63-101

<https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/>

[学会発表](計11件)

竹越孝、『一百條』系漢語鈔本二種の言語、中国近世語学会2018年度研究集会、2018年

竹越孝、社会生活史料としての満洲語会話教材、満族史研究会第33回大会、2018年

竹越孝、Altaic Interference in Chinese Grammar: Focus on the Existential Verb “You 有”、国際中国語言学学会第26届年会、2018年

竹越孝、『一百條』から『清文指要』へ 套話排列と套話内容の対照から、中国近世語学会2017年度研究例会、2017年

竹越孝、満洲旗人の言語生活 清代の満洲語学習書から、学習院大学東洋文化研究所第93回東洋文化講座、2017年

竹越孝、從満漢合璧教材看清代旗人の語言生活(中国語)、近代官話研究の新視野国際研討会、2017年

竹越孝、Diachronic Change Reflected in the Linguistic Difference Between the First 80 Chapters and the Last 40 Chapters of *Dream of the Red Chamber*、国際中国語言学学会第25届年会、2017年

竹越孝、なぜ「満文直訳体」は存在しないか、中国近世語学会2016年度研究例会、2016年

竹越孝、清代満漢合璧会話教材在漢語史研究上の価値(中国語)、第2届文献語言学国際學術論壇、2016年

竹越孝、清代満語語法書の語法描写特徴(中国語)、国際中国語言学学会第24届年会、2016年

竹越孝、什麼是漢民族的共同語?(中国語)、漢民族共同語研究工作坊、2016年

[図書](計8件)

竹越孝、陳曉(校注)、満漢成語对待、全3巻、北京大学出版社、2018年、831頁

竹越孝、『一百條』・『清文指要』対照本(II)補遺・索引篇、神戸市外国語大学研究叢書61、神戸市外国語大学外国学研究所、2018年、336頁

竹越孝、陳曉(校注)、清文啓蒙、全2巻、北京大学出版社、2018年、615頁

陳曉、竹越孝(校注)、続編兼漢清文指要、北京大学出版社、2018年、382頁

竹越孝、陳曉(校注)、清文指要、全2巻、北京大学出版社、2018年、523頁

竹越孝、陳曉(校注)、一百條・清語易言、全3巻、北京大学出版社、2018年9月、756頁

竹越孝、『一百條』・『清文指要』対照本(I)本文篇、神戸市外国語大学研究叢書60、神戸市外国語大学外国学研究所、2017年、564頁

竹越孝、遠藤光暁(主編)、元明漢語文献目録、中西書局、2016年、579頁

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等

なし

6．研究組織

(1)研究分担者

なし

(2)研究協力者

なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。